アメニティの機関紙

19号

2022年1月20日発行

発行 日本生理人類学会 生理人類士認定委員会 編集 山崎和彦(実践女子大学)

【巻頭言】

祝辞

山崎和彦 (実践女子大学)

めでたく資格を得た方々に祝辞を申し上げることになったとする。私はスピーチは一瞬で終える主義である。そこで「我が万感の思いをテレパシーで送ります。では受け取って下さい。サンキュー」

メリクリ、アケオメコトヨロ、卒オメは優れた伝達 手法である。メク、アオコヨ、ソオでもよさそうであ る。相手の目をじっと見て瞬きをすれば意が伝わる 気がする。少々照れてしまうが。

クルマの姿が全くないのに赤信号ゆえに立ち続ける人はウブである。信号が青であるからと突っ走るのもウブである。信号もドライバーも信用するな、よく見て行動せよと子供たちに教えたい。

SDGsに賛同する人はウブである。本気で取り組む覚悟があるとは思われない。遺体は如何に扱うべきか。鳥葬、風葬、バイオマス火葬、オーガニック農業用の肥料化などすればサステナブルだろう。内燃機関の墓場のクリーンさに比べたら、脱炭素という名目で使われたバッテリーの墓場は地獄だろう。

いま世界がきな臭い。拉致された方々を早く取り 戻したい。こうした状況にありながら何がサステナ ブルかと私は思う。サルにとって他の群を抹殺する ことは正義である。彼らがマッチを擦って暖を採る ことを覚えたら自然は大きなダメージを受ける。世 にはサルのような独裁者や組織が多いのであるから、 先ずこれらを何とかせねばならない。

さて。やがて人々は真っ当になり、世も真っ当になり、お互い称え合っていた。するとあるとき宇宙から 火の玉が降ってくる。太陽が陰る。火山が大噴火を始 める。これまで生命体は幾度も絶滅寸前に至った。そ もそも宇宙も地球も気まぐれであり、サステナブル な構造になっていないのである。

【指定校責任者より】

建築環境学と生理人類士認定試験

川村広則(東北文化学園大学)

2021 年度の生理人類士認定試験は 2020 年度に引き続き遠隔講座の形式で行いました。遠隔講座は 10 月中旬から 12 月下旬に渡って全 10 回開講されましたが、ご担当された講師の先生方のみならず受講生にとってもかなりご苦労されたことと思います。しかしながら、受講生全員が合格されたことは大変喜ばしいことです。

本学では科学技術学部(2021年4月からは工学部に学部名称が変更になりました)建築環境学科に所属する学生が受講しましたが、他大学等の講師の先生方から出題された課題を行うことは、大学内での授業と違う緊張感と新鮮さを持ったことと思います。

建築環境学科は「建築デザインコース」、「健康インテリアコース」及び「建築設備コース」の3コースで構成されており、建築・インテリアのデザイン、リフォーム設計、環境工学や設備工学の理論、空調・給排水・電気設備の設計・施工方法など、建築環境学に関連した内容を幅広く学んでおります。

本学科の学生が認定試験を受講することは、生理 人類学の要素も取り入れたより快適な地域・建築空 間を改めて考えさせられる場であったと思います。

また、在学中に建築環境学に関連する資格を取得するための「資格取得プログラム」を設けており、学生には様々な資格に積極的に挑戦することを推奨しております。

「生理人類士認定試験」は、「アメニティ資格取得プログラム」の一環として実施しておりますが、本学科でのこれまでの合格者は110名余りとなっております。生理人類学の基礎を学ぶことは、建築環境学を学ぶ学生にとって重要であり、今後も資格取得を目指す学生が増えることを期待しております。

【生理人類士の声 1級】

生理人類士1級を受験してみて

島田紗樹(西川(株))

私は寝具メーカーにて寝具の研究開発を主に行っており、寝具の商品開発を始め、最近では寝具売り場で快眠の総合コンサルティングを行う「ねむりの相談所®」などのサービスの構築も業務として行っております。これらほとんどの業務が生理人類的な発想に基づかないと進めることが出来ず、日々、生理人類学の知識が役立っていることを実感しております。

生理人類士に関しては学生時代に 2 級、準 1 級と 受験し、この度 1 級を受験させていただきました。 1 級では生理人類学に関わる業績が必要となり、企業 等の場合ですと生理人類学的な発想に基づく業績も 対象となります。 1 級受験を考えるにあたり日々の 業務が生理人類的な発想で実施していたか、また、こ れら業務に対する自分の貢献度について考えました。

今までも 1 級受験のお誘いを頂いたことがありましたが、 1 級を取得されている方は大学の先生が多く、自分の業務に対する貢献度なども考えると 1 級に相応しくないのではなかと思い受験を躊躇していました。しかし、今回今まで力を入れてきた業務のリリースや特許登録などもあり、思い切って受験することにしました。1 級認定をいただくことができ、今までの業務が認められたように感じるとともに、より一層知識を深め仕事に取り組みたいと思います。

私の研究計画

那須ゆうみ (実践女子大学)

本資格における私の受験歴は2級(大学2年)、 準1級(大学3年)です。この度、1級資格をいた だき誇らしく思っております。

私の卒業論文のタイトルは「情動の評価方法の特徴と精度」です。これは HRV はじめ生体電気を主体とする手法により生理心理機能について評価する試みです。私の結論は、HRV は再現性が乏しく、HR、脳血流量、皮膚電気活動の方が情動をよく反映するというものです。

卒業後は本学助手として勤務しております。2022

年4月からは、助手兼大学院生として補助業務と学業に励む所存です。

大学院で行いたい研究テーマは幾つかあります。 ひとつは HRV に再びトライすることです。卒業研究での手法は測定時間を3~5分とする短期型でした。そこで今後は長期型 HRV に挑戦することを考えています。これにより月経痛の不定愁訴や終日に渡る頭痛等との関係を捉えることができるのではないかと推察しています。他には、新しい暗順応評価方法の提案、気温と代謝量との関係、超音波診断装置の有効活用などが挙げられます。

今年の10月に京都大学で開催予定の第83回大会で皆様とお会いできることを楽しみにしております。 最後に。私が愛してやまない仲間達を紹介します。



私の目の前を N ゲージの電車が 毎日快調に駆け抜けていきます。

【生理人類士の声 準1級】

環境変化への対応と生理人類学

矢澤有一(武蔵野大学人間科学部)

Covid19 の感染拡大により、外出時のマスク着用やテレワークの加速など我々が積み重ねてきた生活様式が大きく変化しています。また現代では、温暖化をはじめとする気候変動、AI など圧倒的な技術進化など、ヒトが今まで経験したことの無い急速な環境変化への対応が必要となっています。

生理人類士認定の学びを通じ、このような環境変化への対応において考えるべき本質的な姿勢を学ぶことが出来たと感じています。小さなことで言えば、上記テレワークにおけるネットを介したコミュニケーションにおいても、自分を映しているカメラの位

置によって、相手と目線を合わせた会話が難しい環境があります。「相手の目を見て、何かを感じ取りながら会話する」という人間社会を構築するために培われてきた重要な役割が阻害されています。改善していくためには会話というものの本質を生理学的により深く分析していくことが必須だと感じます。私は今まで技術を開発し、それを利用して製品やサービスを提供する業務に携わってきました。改めて生理人類学の学びは、この分野においても役立つ学びであると感じることが出来ました。

冒頭にあげさせて頂いた現代の様々な変化に対し、 幅広い観点からヒトの特性を理解し、本質的な対策 を講じていく事、そして、技術の進化と人類の生理学 的な進化の双方を考慮しつつ社会を発展させていく 事、今後こういった考え方の重要性をより意識して 歩んでいきたいと思います。

【生理人類士の声 2級】

興味から発見へ

中村千鶴(武蔵野大学通信教育部)

今回、生理人類士試験がオンデマンド講座だったので、どんな面白い話が聞けるのだろうという期待のもと、受験しました。生理人類学の範囲が人間一般に関係あることなので、建築・人間工学・健康・環境・被服など、幅広い分野の視点から学べたことが良かったです。

わたしは、環境心理学に興味があったので、COVID-19の流行によって、人の環境配慮行動がどのように変化したのかをテーマに研究していました。生理人類士の講座で、「ヒトの脳が発達したがゆえにこころの問題が産まれたこと」や、「テクノロジーの発展によって人間の心身はどんな影響を受けるか」などについて考えることは、環境と人間の心の関係を考えるという意味で大変有意義でした。オンデマンド形式だったので、興味を持った内容について調べてレポートを書くことにより、理解が深まったように思います。また、統計の講義内容は、研究の全体構成を振り返るのに役立ちました。

日常的に不具合を生じていた姿勢や動作について、 その原理を知ることによって、「あ、そういうことだったのか、次はこうしてみよう!」と発見したことも あり、生活改善にもつなげられると思いました。

普段は、マス・メディアからいろいろな情報を仕入れることはできるのですが、そこからもう一歩、ヒトを中心に考察してみるという過程が、新たな発見につながるのではないかと思います。そして、このことは、人間の生活環境をよりよくしていくことになるので、あらゆる分野で役立つと思います。

生理人類学を学んで

今井菜々美(武蔵野大学人間科学部)

私は大学での講義を通して、生理人類学に興味を 持ち、もっと学びを深めたいと考え、生理人類士2級 の資格取得を目指しました。

生理人類学で学ぶ人間の生理機能や身体特性に関する知識は、その知識を応用し、身体に悪影響を及ぼす姿勢・動作とその対策や、寒冷環境・暑熱環境を快適に過ごすための衣服の条件、質の良い睡眠のとり方など身体に負担がかからず、健康で快適に過ごせるような行動や方法について考え、生活の質を高めることが出来ます。また、生活環境を向上させる行動だけでなく、気候変動や災害などの環境問題を引き起こす原因となっている人間の行動についても学び、私たちが暮らしやすい環境づくりだけでなく、環境にやさしい暮らし方についても考えていく必要があると思いました。

絶えず、変化し続ける環境に適応し、人にも環境に もやさしい暮らしを守るためには生理人類学の学び が非常に重要になってくるのではないかと考えます。

快適環境の多様化

古川朋実(実践女子大学生活科学部)

生活していく中で私たちが快適だと感じる環境、 不快だと感じる環境は多々存在する。また、それは人 によって様々である。たとえば作業空間の音環境に 焦点を当てて考えてみると、作業をするときに人の 話し声や物音のするカフェを快適だと思う人や、一 人で静かな環境が快適だと感じる人がいる。

さらに、コロナウイルスの流行により私たちが求める環境条件に変化が現れたようにも感じる。例えば、食事をする際に冬だと外気が寒いことが不快に感じる為テラス席はなかなか選ばれなかったが、コロナ禍で換気が特に重要視されるようになってからは、快適さよりも安全性を優先し冬でも風通の良いテラス席を選択する人が増えている。

これらのことから、重視される環境要素は様々であり、そうした環境を構築するためには、時代に沿った変化、そして、各人の好みにいかに対応していくのかが大切であると思う。

しかし、誰もが快適であると感じる同一の環境や空間を作り出すことは、今後いかにテクノロジーが発達しても難しいと感じる。したがって、私たちには、人類とそれを取り巻く要素やそれらにまつわる問題に対して理解を深め、対応していくことが重要とされていると思う。以上を踏まえ、引き続き生理人類学について勉強し知識を深めていきたいと考える。



月にはススキがよく似合う

生理人類士認定試験を受けて

武田愛花 (東北文化学園大学科学技術学部)

私は建築環境学科に在籍していますが、建築学という分野はとても広く、なかでも健康で快適に過ごせる建築環境学について思索するため、知見を広げたいと考えていた際に、教授に本試験を教えていただきました。

大学での授業内容と被る講座もありましたが、よ

り深く知識を得ることができ、人が様々な建築環境 の変化にどのように関わり、どのように適応してい るかを改めて考えることができる機会となりました。 便利になっていく世の中に疑問を持たず、効率的で 実用的な建築空間が整えられていると漠然と感じて いましたが、便利になることが建築空間を変化させ、 必ずしも人に良い結果を与えるとは限らないことを 学ぶことができました。建築環境学という分野で便 利さや快適さを提供するために、今回の講座で得た 知識を活用し、深めながら今後に役立てていきたい と思います。



研究室より太平洋を望む

無意識の順応

安 星奈(共立女子大学大学院家政学研究科)

「過去を学ぶ」「現在を見る」「未来を考える」と一口に言っても、その意義や活用方法まで深く理解するのは決して簡単ではありません。ですが、この度の生理人類土の資格取得の中で、人類についてさまざまな視点から学び、考えると、これまでは自分自身の中でそれぞれ点として存在していた知識や経験が必ずどこかで交わり、正に点と点が繋がるような感覚を得ました。それと同時に、現代社会がいかに複雑に絡み合いながら著しく変化しているのかを理解しました。

私にとっての快適とは、「可能な限り違和感を得なくてよい状態」であり、さまざまな環境や状況の変化に、何か特別に意識をせずとも順応できることが理想です。そして、私は現状、複雑に絡み合いながら著しく変化している現代社会の中でも、理想の通り、意識をせずとも順応できているように感じています。

では、自分自身の能力や努力を問わずにそれが可能になっているのは何故かと考えた時、10週に渡る講義の中で改めて感じた、「自然環境や社会構造の変化に対してより多くの人々が適応し、快適に生きていけるようにと力を尽くしている人々」の存在のもとに、自身の「無意識の順応」が成り立っているのだと理解しました。

自身の快適な生活を支えてくださる人々の存在に 感謝するとともに、自身もまた誰かの快適な生活の ために力を尽くせる人を目指し、今後は、「過去を学 ぶ」「現在を見る」「未来を考える」これらを行うにあ たって、その物事は、守り受け継いでいくべきものな のか、変化に適応していくべきものなのか、大きな変 革が求められるものなのか、慎重に検討し判断して いく能力を養っていきたいと考えています。

快適と感じる写真を掲げてもよいということでしたので、先日、横浜で撮影した画像を添えます。



掌中の夕陽

【2021 年度 生理人類士優秀賞 受賞者】 準 1 級

矢澤有一(武蔵野大学)

2級

中村千鶴、今井菜々美(武蔵野大学)、岩間唯菜(実践女子大学)、武田愛花(東北文化学園大学)、安星奈(共立女子大学)

【2021年度 資格認定者】

1級特別認定

泉明宏(武蔵野大学)、川村広則(東北文化学園大学)

1級

島田紗樹 (西川産業)、那須ゆうみ (実践女子大学)

準1級

矢澤有一、佐藤理沙(武蔵野大学)

2級

須佐里香、江頭陽子、山本直樹、中村千鶴、富永律子、 佐々木彩乃、曽我英臣、今石舞、齋藤爽菜、荘又澂、 高根沢百華、古内優斗、邊見あづき、細井穂乃花、 堀池優海、諸岡峻、古賀大智、中野優南、福桝沙季、 イ ヒョンソン、井出花乃、伊藤碧、稲垣有花、 今井菜々美、植木菜月、宇山ひかり、加藤茉葵、 金田夏美、小山瑠花、杉浦栞菜、段蘊芳、塚山あかね、 新井田琉揮、西田朱里、平塚瑞稀、森斗磨、諸岡真綾、 川﨑桃子、藤澤ひかり、元井聡太、中山暁音(武蔵野 大学)、岩木知恵、岩崎菜帆、岩間唯菜、瀧本琳、 布施菜々子、古川朋実、平末めぐみ(実践女子大学)、 菅野八起、菊池航祐、高橋瀬名、武田愛花、舘和樹、 土屋紫苑、戸嶋吏玖、中村俊介、八重樫葵、桑折雄大、 平拓巳、外山広樹、菱沼佳祐(東北文化学園大学)、 安星奈、石内順子、渡部仁美、中村有沙、矢代麗奈、 西澤花菜(共立女子大学)

以上、1級4名、準1級2名、2級67名

【2022年度資格認定試験】

1級

受験申込:随時受付

試験日程:相談して調整します

準1級・2級

受験申込: 2022 年 9 月 20 日(火)~10 月 3 日(月) 試験日時(指定校の指示に従って下さい)

I 期 2022年11月26日(土) 13:00~14:00

Ⅱ期 2022年12月3日(土)13:00~14:00

詳細は各大学の指定校責任者にお問い合わせ下さい。あるいは、日本生理人類学会ホームページ http://jspa.net/の「学術活動」→「資格認定」を ご覧下さい。

【編集後記】

学会ホームページには「アメニティの機関紙」の バックナンバーが載っています。従来、A3版中折 型として両面に印刷するため、4頁に収まるよう編 集する必要がありました。その後、印刷しないこと となり、4頁の制約から解放されました。

そこで今回、「できれば写真もお送り下さい」と お願いし、このような姿となりました。記事をお寄 せ下さった皆様に御礼申し上げます(山崎)。

【日本生理人類学会資格事務局】

所在地 : 〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5

アカデミーセンター

電話:03-6824-9369 FAX:03-5227-8631

メール: jspa-post@bunken.co.jp